

民生教育常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年5月20日（月）
午前11時分～午後0時15分
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 小野寺美穂 副委員長 大友 康信
委 員 阿部 正義 委 員 佐藤さやか
委 員 佐藤 繁樹 委 員 熊谷 克彦
委 員 長南 良彦
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため なし
出席した者
- 6 事務局職員 主 事 高橋 桃花
- 7 付議事件
(1) 不登校の現状について

午前 11 時 開 会

○委員長（小野寺美穂） 出席委員は、定足数に達しておりますので、委員会
条例第 14 条の規定により委員会は成立いたしました。

ただいまから、民生教育常任委員会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の委員会次第書のとおりであります。

この際、諸般の報告をいたします。

本日の会議に係る一切の資料をお手元に配付しておきましたから、御了承願
います。

以上で、諸般の報告を終わります。

それでは、付議事件の（１） 不登校の現状についてを議題といたします。

初めに、本日の進め方について説明いたします。

まず、現地にて執行部より本日の説明要請事項について御説明いただき、そ
の後、委員各位より質疑をお受けする形で進めてまいりますので、よろしくお
願いいたします。

それでは、これより現地調査を行います。現地調査終了まで、休憩いたしま
す。

午前 11 時 1 分 休 憩

＊休憩中の要旨

○不登校の現状について

執行部より説明をした。内容は以下のとおり。

（学校教育課）

1. 子どもの心のケアハウス（はなもも教室）概要

設置目的：心理的要因等により不登校の状態またはその傾向にある児童生
徒の教育相談、学校復帰及び自立に向けた支援、学習支援等
を行うため、平成 31 年 4 月 1 日に設置。

活動状況：

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
正式通所	18人	19人	18人	21人	20人
体験通所	20人	23人	30人	43人	21人
来所相談延べ件数			268人	379人	247人

2. 令和6年度 はなもも教室の運営について

(1) 体制について

①支援体制

【通常】

○スーパーバイザー 1名 ○心のケア支援員 4名

【派遣】

○けやき支援員（週1回程度）

○スクールカウンセラー 3名

（各月1回程度、長期休業期間5回）

○ALT 1名（月2回程度、午後から）

②協力体制

○学校教育課 ○SSW（2名）

○こども支援課、家庭児童相談室 ○ボランティア

(2) 支援内容について

市教育委員会及び所長（学校教育課長）の指示の下、通所児童生徒及び保護者への支援に当たる。

①スーパーバイザー

○児童生徒や保護者の教育相談

○支援員の支援に対する指示・助言

○教育委員会や学校、SSW、SC、訪問指導員、こども支援課、保健センター等との連携の窓口

- 支援計画作成の統括
- 通所者の状況の集計と記録
- 通所報告（教育委員会・各学校へ）、活動状況報告（県・事務所へ）の作成
- はなもも教室だよりの作成
- はなもも教室の設備維持と管理の統括

②支援員

- 児童生徒の教育相談
- 支援計画の作成及び活動記録の作成、保存
- はなもも教室で集団生活への適応や情緒の安定、基礎学力の補充、
基本的生活習慣の改善の支援を行い、社会的自立を目指す
- はなもも教室での支援のほか、児童生徒の実情に応じて家庭支援
や学校支援を行う
 - ・家庭支援：通所のための支援、家庭訪問を行っての支援
 - ・学校支援：登校のための支援、学校での支援（アウトリーチ）
- はなもも教室の設備維持と管理
 - ・安全点検・掃除、畑の利用計画、作物の手入れ、建物周辺・駐
車場の除草

(3) 利用状況について

①令和5年度の利用状況

- 登録者数 中学生：16名
小学生：4名 計20名

○延べ来所者児童生徒数：924 名

②令和6年度の利用状況

- 登録者数（4月30日現在） 中学生：1名
小学生：1名 計：2名

※5月20日現在、計3名

- 延べ来所者児童生徒数：50 名（前週までで 80 名）

4. 年間活動について

(1) 令和5年度の行事1

- ・調理実習（4回） ・先輩の話を聞く会（2回）
- ・発表会、展示会（1回） ・水の不思議実験
- ・遠足（3回） ・サイクルスポーツセンター（2回）

(2) 令和5年度の行事2（ボランティアの方々の協力）

- ・習字教室（7回） ・パールポーチづくり（1回）
- ・たこづくり（1回） ・作物づくり ・草刈り

(3) 令和6年度の行事について

新しい行事等：外食散歩（かわまちてらす）、避難・引き渡し訓練、各地区公民館等での支援

その他、退職校長会名取支部への協力依頼など、ボランティアの幅を広げる

5. 振り返り

(1) 中学校に進学した生徒の接続に不安があるため、事前の打合せをし、はなもも教室の支援員1名をアウトリーチした。1週間、午前中だけであつたが進学先の中学校に赴いた。該当生徒に寄り添いながら、不安を取り除くと同時に、担任とその都度該当生徒のよさや苦手な部分を共有することで、該当生徒の安定した登校につなげることができた。

(2) 市内15校への学校訪問を行い、現在の各校の不登校児童生徒の現状や別室登校の状況を把握することができた。同時に、通所した際には、児童生徒の在籍校へ原則連絡をしていることもあり、校長先生、教頭先生、学年主任が来所したり、担任からの連絡がきたりするようになった。

(3) 学校での不登校児童生徒と保護者との面談に加えてもらうことで、はなもも教室の様子や各種行事についてお知らせすることができた。その

ことで、本人はもちろん、学級担任もはなもも教室での行事と一緒に参加しようとする姿勢が見られた。

- (4) 調理実習や校外学習への参加児童生徒は多くないが、コミュニケーションが増えたり、関係する学校の担任やSSW、SC、ALT、保護者などにも参加していただくことができたりと、よい活動となった。
- (5) 母親の車での送迎で通所していた中学3年生の男子が、バス利用で通所したいと申し出た。初めてのバス乗車の際には支援員がついて一緒に利用し、バス停や運賃の払い方などを支援した。そのことが自信となり、次の日は自力でバスを使って通所することができ、大きな進歩であった。
- (6) こども支援課や家庭児童相談室と連携することで、家庭に課題を抱える保護者が支援を受けられるようになった。
- (7) 家庭訪問の前に学級担任と一緒に訪問することを母親に連絡し、家庭訪問を実現することができた。学級担任は、今年度初めて本人の顔を見ることができたと大変喜んでいた。
- (8) 私立高校の自己推薦試験を受ける中学3年生の生徒のために、何度も自己推薦文の相談に乗ったり、面接の練習を行ったりし、その生徒は合格することができた。
- (9) 令和5年12月26日(火)に、ケーキ作り・発表会(先輩の話)・展示会を行った。展示会では、今まで作りためていた作品やはなもも教室で作った作品などを展示した。また、発表会では、2名の男子生徒が「飛行機について」「ゲーム制作について」という内容で、パワーポイントをつくって堂々と発表することができた。

卒業した高校生1名、大学生1名も参加し、当時の心境や現在の様子について話をしてもらった。大変心に響く内容で、保護者の中には涙を流している方もいた。児童生徒は11名、保護者、教員等を合わせると40名以上が参加した。関係する学校の校長先生をはじめ、担任の先生方の姿もあった。事前の準備は大変であったが、大変意義のある会になっ

た。

- (10) 日頃から学校と連携を密にしてきたことで、1つの学校ではあるが、教頭先生と一緒に入っていただき、児童2名について保護者面談を行うことができた。次年度に向けて、前向きな話し合いを持つことができた。
- (11) 令和5年度は学習中心の活動を行う雰囲気が出てきていて、進んで問題に取り組む生徒の姿が多く見られるようになった。その結果、中学生の中には、全ての教科ではないが、学年末試験を受けたいと申し出る生徒が増えてきた。
- (12) SSWや学校の働きかけもあり、2人の小学6年生が学校に登校することに主眼を置いた目標に修正し始めた。登校する日数や時間はまだ多くないが、友達とのやり取りも少しずつできるようになってきている。中学進学に向けて、少しでもハードルを下げた状態を作れるようバックアップしていきたい。

<質疑応答>

- (質) 令和5年度、正式に通所していたのは市内のどの地域の児童生徒か。
- (答) 一番遠くて相互台学区の子で、週2～3回通所している。増田中学校区や第一中学校区の生徒も多い。
- (質) 令和6年度、正式に通所している3名はどこから通所しているのか。
- (答) 増田地区、相互台地区、名取が丘地区から通所している。
- (質) 資料3ページ4(3)①に各地区公民館等での支援とあるが、令和6年度はどの公民館で行うのか。
- (答) まだ決まっていない。
- (質) 資料2ページ3について、登録者数が令和5年度の20名から令和6年度は3名に減となった要因は。
- (答) 令和5年度の20名は1年間の登録者数で、夏休み明けに相談が増えたため、令和6年度も増えていく可能性がある。現時点で登録している児童生徒は令和5年度も通所していた子供たちである。

(質) 保護者のニーズの把握とその対応方法は。

(答) 通信制の高校への進学を決めてくる生徒も多い。公立高校に行かせたいという保護者もいるが、生徒と保護者の考え方の違いをみて、スーパーバイザーから保護者へお話しすることもある。学校にも伝えている。

(質) 通所している児童生徒の1日の過ごし方は。

(答) 基本、児童生徒がやりたいことを優先している。まずは居心地のよさを優先し、徐々に学習へと導くため、おおよその学習タイムには声かけを行っている。令和5年度は勉強する児童生徒が多かったが、令和6年度は異なっており、まずはゲームなどで先生方など大人に慣れるようにしている。児童生徒が何をするか決められないときは、スーパーバイザーから声をかけている。また、丸1日はなもも教室で過ごす児童生徒は少なく、午前中、午後などと時間を決めて過ごすことが多い。

(質) 小・中・義務教育学校に通う子を見てもっと受け入れてほしいが、教育委員会と情報共有し、受け入れるような方法はできないか。

(答) 学校からの情報が中心になる。年5回学校を訪問し、気になる児童生徒に声かけするよう伝えている。また、保護者が希望しても本人が来たいと思わないと長続きしない。通所方法も限られており、通うだけで疲れてしまう子もいる。近すぎても通所ににくいとは思いますが、声かけはしている。

(質) オンラインでの対応は行っているか。

(答) 今のところ方法がないため行っていない。

(質) 手段があれば実施するのか。

(答) 手段があれば実施したい。学校とはなもも教室をつなぐことも考えられる。

(質) オンライン対応に予算やマンパワーの壁を感じているか。

(答) オンラインが全てではなく、家庭訪問や公民館等で顔を合わせている。オンラインでどこまで子供の心をつかめるか分からないが、できればオンライン対応も実施したい。

(質) 卒業した児童生徒と連絡を取っている事例は。

(答) 令和4年度に卒業した生徒と、先輩の話を聞く会に出てもらうなど、連

絡を取っている。今も高校に通っている様子である。

(質) 高校生になったら通所できないなど、制限はあるのか。

(答) 市内の小学1年生から中学3年生を対象としており、不登校の高校生を受け入れるのは難しい。

(質) コストやマンパワーを考えなければ、市内西側にもはなもも教室と同様の施設があったほうが良いと考えるのか。

(答) 子供の負担などを考えてもあったほうが良いと思う。令和5年度のサテライトも、名取が丘在住の2人のために行った。全ての子供にそのような周知を行うことは、今の体制では難しい。

午後0時15分 再 開

○委員長（小野寺美穂） 再開いたします。

以上で本日の付議事件は全て終了いたしました。

本日の委員会はこれにて散会いたします。

大変お疲れ様でした。

午後0時15分 散 会

令和6年5月20日

民生教育常任委員会

委員長 小野寺美穂